

第1回

京都建築賞

結果発表

■主催 (一社) 京都府建築士会 ■後援 京都市・宇治市

■趣 旨 目 的 京都府建築士会創立60周年を記念して、本賞を創設する。
本会会員による京都の歴史的文脈を踏まえつつ創造性の高い建築作品を表彰し、その活動および業績を広く社会に伝えることにより、京都および建築の継承・発展に資することを目的とする。

■審査委員会 委員長 岸 和郎 (京都大学教授)
委 員 河邊 聡 (京都工芸繊維大学名誉教授)
辻村 久信 (辻村久信デザイン事務所+(株) ムーンバランス代表 京都造形芸術大学教授)
中村 義明 (中村外二工務店代表)
文山 達昭 (京都市)
堀木エリ子 ((株)堀木エリ子&アソシエイツ代表)
満田 衛資 (満田衛資構造計画研究所代表)

■応募作品数 21作品 (募集期間 平成25年2月14日～2月28日)

第1回 京都建築賞 審査総評

審査委員長 岸 和郎

京都府建築士会によって、本年度はじめて創設された賞である京都建築賞の審査の経過についてご報告いたします。

資料の提出期限である2月28日時点で、応募作品数は21作品であり、建築士会により様々な事前確認のプロセスを経た後、3月28日に一次審査委員会が開催されました。ここでは書類審査により現地審査作品を選ぶことが目的であり、様々な議論の結果、「斜庭の町家」、「総本山知恩院 和順会館・参道整備」、「New Kyoto Town House」、「島津製作所創業記念資料館」、「桂坂の家」の5作品を現地審査作品として決定しました。

引き続き5月12日には、右記5作品の現地審査を行い、それぞれの設計者、クライアントのご協力により無事に審査を終了することができました。

現地審査終了後、ただちに最終審査委員会を開催し、右記5作品について以下の結論を得ました。まず、現地審査を行った作品5点とも、十分に評価すべき水準にあることを審査員全員で確認し、この5作品を選定作品とすることを決定しました。

引き続き優秀賞、最優秀賞の議論に入り、最終的に「斜庭の町家」、「New Kyoto Town House」、「島津製作所創業記念資料館」の3作品を優秀賞とすることに決定しました。「斜庭の町家」については京都の

町家という形式性を引き継ぎながら新しい生活に対応する空間を創造していること、「New Kyoto Town House」についてはむしろそれとは逆にファサードと内部空間を意識的に異なったものにする事で、京都の町家に対する批評性のある建築が成立していること、「島津製作所創業記念資料館」については古い建築に新しい機能を導入しながら再生するという要求に対して、歴史的な意匠・構造についてはそのまま保存しながら、新しい構造補強は金物を使い、それが後世の補強であることを建築に刻印していくというやり方は、古い町家の改装を装いながらそれがオリジナルか、あるいは後世の手が入ったものが未整理のままで行われているような、最近に多い改装のあり方に対して警鐘を鳴らすものであること、以上の点から上記3作品が選ばれました。

最優秀賞については、本賞が京都建築賞であるため、「京都」性の表現が十全に機能していること、その点を審査のクライテリアとするべきであり、優秀賞の3作品のうち、いずれも「京都」性の表現としてこれが決定的であるというものではないのではないかと、という議論が為され、本年度は最優秀賞はなしという結論に至りました。

以上で京都建築賞の審査過程とその結果の報告といたします。

【講評】

京都御所に近接し、周辺には町家が建ち並んでいる。厳しい景観規制が定められてもいる。敷地がおかれたそのような状況に対し、斜に構えることなく正面から応答しようとする意図が小規模ながらも随所に感じられた。とりわけ、町家の伝統的な空間構成を再構築し、若い家族に似つかわしい、おおらかで心地のよい一室的な住空間をつくりだしている点は、京都の都市居住に対するひとつのモデルになりえるだろう。建築の完成度という点からみれば、細部の納まりや仕上の選択において気になる部分がないわけではない。また、作品名にも冠された斜庭については、内部空間に独自の効果をもたらしている一方、直交を基本とする京都の街区グリッドに対して有効な提案たりえているかは議論の余地があるところだろう。だが、それらの点を差し引いても、表層的な意匠性や様式性に頼ることなく、建築の建ち方そのものにおいて、京都の歴史的文脈に応じようとする設計者の姿勢は高く評価できる。

(文山達昭)

優秀賞 斜庭の町家

設計者：柳沢 究
名城大学 理工学部 建築学科
施工者：(株)高橋工務店

所在地／京都市上京区
竣工／2009年9月
敷地面積／94.50㎡
建築面積／56.40㎡
延床面積／112.80㎡
構造規模／在来木造
地上2階建



優秀賞 New Kyoto Town House

設計者：竹口健太郎
山本麻子
(株)アルファヴィル
一級建築士事務所
施工者：(株)かわな工業

所在地／京都市上京区
竣工／2010年3月
敷地面積／78.68㎡
建築面積／44.00㎡
延床面積／104.66㎡
構造規模／鉄骨造
地上3階建



【講評】

京都の町家というにはあまりにもそつけない印象の外観と、ドラマチックに場を展開する内部空間とのギャップ。それがこの作品の独自性になっている。

一見、装飾的に見える多面体の間仕切りパネルは、壁や床、階段の表裏を緩やかに繋げ、変化のある実用的な空間を生み出していた。また、自然光をやわらかく反射させ、内部の空間に奥行きと広がりを感じさせている。

シナベニアの壁によって、建物と家具の中間のスケールを意識させるといふ狙いは、この建築物の特徴となつて、素材や構成に対するチャレンジ精神もうかがえた。

二条城の北、歴史遺産型美観地区において、外観については、もう一步踏み込んだ提案がほしかったということが、審査委員すべての思いであり、最優秀賞に至らなかった点だ。周辺環境を視野に入れた創造性の高い建築をめざして、次の作品への期待をしたい。

(堀木エリ子)





優秀賞

島津製作所 創業記念資料館

設計者：宗本晋作
(株)宗本晋作建築設計事務所
施工者：太平工業(株)

所在地／京都市中京区
竣工／2011年2月
敷地面積／825.62㎡
建築面積／308.28㎡
延床面積／550.50㎡
構造規模／木造 地上2階建



【講評】
記念碑から始まり様々な展示を体験し、最終創設者の居間へと行き着く導線計画とする事で、創業の精神から現在迄を時間軸に沿って遍歴を再構築している。意匠的に突出するところは無いが、すべてにおいて品良く展示品が主役になるようにまとめられている。それ故、建築の持つ歴史やそこに関わる人達の息遣いの輪郭を直に感じることができる。現在、我々の生活において「新しいもの」が全

て「良」とされるべきものなのかが問われている。島津製作所創業記念資料館のデザインは、時代のプログラムを与えること、そのところがデザインの重要な要素であって、特異な様式や意匠がデザインを決定づけるものではない、というひとつの解答を「京都の建築」を考える私達にも突きつけているかのようである。
(辻村久信)

入選

桂坂の家

設計者：森村政悦
森村政悦建築設計事務所
施工者：富士建設工業(株)

所在地／京都市西京区
竣工／2011年4月
敷地面積／219.70㎡
建築面積／108.06㎡
延床面積／164.57㎡
構造規模／鉄筋コンクリート造一部木造 地上2階建



入選

総本山知恩院 和順会館・参道整備

設計者：増田俊哉 小椎尾 龍介
(株)竹中工務店 [増田]、(株)竹中工務店 国際支店 [小椎尾]
施工者：(株)竹中工務店

所在地／京都市東山区
竣工／2011年2月
敷地面積／3585.04㎡ (参道：11195.70㎡)
建築面積／1623.45㎡
延床面積／6746.76㎡
構造規模／鉄筋コンクリート造 地上3階地下2階建





60周年記念事業での展示（セスト御池）



総括

京都府建築士会創立60周年記念の年に、京都建築賞を創設できましたことは、関係各位の皆様からの賜物と感謝致しております。

本賞の創設にあたり、顕彰制度特別委員会では表彰要件として次の二点に留意しました。その一つは、京都に根ざす建築士団体として、京都の歴史文化の文脈を踏まえた建築を表彰するということです。さらに、単に伝統的意匠をまとうだけでなく、創造性という特質を求めています。この両者を備えた建築が京都建築賞に値するものと考えました。次の二点目は、建築が設計行為のみではなく、発注者の存在、施工分野のコラボレートがあって初めて成り立つものであるということから、この3者への表彰でありたいというものです。今回は、設計者の表彰として、他2者へは十分な対処ができていませんが、今後の課題として取り組みたいと考えています。

今回は初めての表彰でもあり応募数が少ないのではとの担当者の心配をよそに、想像以上の応募があり、早速審査に入ることができました。応募作品は、平成25年3月10日の60周年記念事業会場で展示することができ、多くの来場者に見ていただくことができました。さて、審査は高名な建築家

（一社）京都府建築士会 会長 衛藤照夫

である岸和郎様に審査委員長をお願い致しました。ほか6名の審査委員いずれも、建築に関わるさまざまな分野で活躍されている素晴らしい方々です。

書類審査段階から、各委員はそれぞれの高い専門性と博識を持つて真剣な議論の上、入選作品5点を選定し、それを現地審査対象と致しました。継いで、まる1日に渡る現地審査の結果、優秀賞が3点選出されました。いずれもおとらぬ優れた作品です。ただ、最優秀賞は今回無しとの審査委員会の総意です。次年度以降に、最優秀作品にふさわしい応募に期待するところです。これらの優秀賞受賞者の皆様には、平成25年5月30日の（一社）京都府建築士会通常総会会場にお越しいただき、表彰状と記念品を授与させていただきました。

このように、京都建築賞は多数の応募者の方々、岸委員長をはじめとする審査委員各位による真摯で、高い専門性に裏づけされた選定行為によるものです。また、賞の創設、運営に関わった建築士会特別委員会委員の皆様により、京都建築賞の創設と第一回表彰を終えることができました。ここに、あらためて皆様に感謝するとともに、この京都建築賞制度が長く続くことを祈念いたします。

第1回 京都建築賞 応募作品一覧

作 品 名	設 計 者	会 社 名
パークウォーク・京都東山	福井康宏	(株)福井建築設計事務所
紫野の町家改修／TIMELINE Machiya	柳沢 究	名城大学 理工学部 建築学科
宇治黄葉学園 宇治市立宇治小学校 宇治市立黄葉中学校	竹馬 聡・伊藤昭裕	(株)佐藤総合計画 関西事務所
斜庭の町家	柳沢 究	名城大学 理工学部 建築学科
あしだ建設 Gallery & Office	藤村正継	CN-JAPAN／(株)クリエイティブネットワーク
葵 KYOTO STAY 葵・新町	藤村正継	CN-JAPAN／(株)クリエイティブネットワーク
擁壁のある家	宮武淳夫	宮武淳夫建築＋α設計
京都産業大学壬生校地 むすびわざ館 および 附属中学・高等学校	梅田善愛・瀬山充博・木村直記	(株)竹中工務店
京都東宝公衆ビル／ロイヤルパークホテル ザ 京都	梅田善愛・谷地建児・川原村 真幸	(株)竹中工務店
総本山知恩院 和順会館・参道整備	増田俊哉・小椎尾 龍介	(株)竹中工務店／(株)竹中工務店 国際支店
モリタ製作所 テクノラボ	森田恒次	(株)森田設計
黒門の町家／次の100年へ	村西弘至・河野太郎	空間工房 用舎行蔵 一級建築士事務所
New Kyoto Town House	竹口健太郎・山本麻子	(株)アルファヴィル一級建築士事務所
Ub HOUSE	福谷隆教・梅林 克	(株)エフォーバーアソシエーション
島津製作所創業記念資料館	宗本晋作	(株)宗本晋作建築設計事務所
緑ノビル	宗本晋作	(株)宗本晋作建築設計事務所
池端法衣店ビル	黒木幹雄	(株)アーキネット京都 一級建築士事務所
桂坂の家	森村政悦	森村政悦建築設計事務所
四条木製ビル／第15長谷ビル	河井敏明	一級建築士事務所河井事務所
京都水族館	齋藤篤史・森田剛至・杉村孝平・今吉 毅	(株)東洋設計事務所
綾部 大家族の湯	梅田善愛・市川 徹	(株)竹中工務店